



三笠だより

舞鶴市立三笠小学校
学校だより 2月号
令和2年1月31日 発行
<http://mikasa.maizuru.ed.jp/>



友達と対話し、自分と対話する



「雪が降らないのはありがたいことですが、なんだか舞鶴の冬じゃないですね。」朝の登校を見守ってくださる方々と、こんな会話をよくかわします。子どもが氷を大事そうに抱えて登校するという冬の光景も、今年は見られません。霜柱を踏んだときのサクサクという足裏の感触を体験することもなさそうです。

2月3日は節分。暖冬の中でも、季節は確実に進んでいます。節分と言えば豆まきですが、地方によっては「福は内、鬼も内。」と言って豆をまく風習があるという話を聞き、少し調べてみました。昔、村人が鬼に助けられたという言い伝え、鬼も改心するという考え、鬼は悪者ではなく身近な存在であるなど、理由は様々なようです。中には、各地で追い払われた鬼がかわいそうで村に入れたという地方もありました。鬼は悪者と決めつけない、先人の懐の深さに触れたような気がしました。

先日、5年生の朝の会を参観しました。5年生は「今日の言葉」と題して、自分が心に響いた言葉を紹介する時間を設けています。その日の当番の子が紹介したのは、**他人と比較してものを考える習慣は、致命的な習慣である。**という、イギリスの数学者であり哲学者、理論学者でもあるバートランド・ラッセルの言葉でした。5年生になると、こんな深い言葉が心に響くんだと、感心しながら聞きました。紹介の後は、質問や感想を言い合います。「どういう意味なのか。」という質問に、紹介者は「他人と比べるんじゃないかと、自分と比べるということじゃないかと思う。」と答えました。それを聞いた別の子は、「自分と比べるというのは、今までの自分と比べるということではないか。」と、さらに深める発言をしていました。なるほどと感心するとともに、私も5年生の子どもと一緒に話し合いに参加したいなという思いに駆られました。

このように、三笠小学校では、朝の会の時間を活用して、スピーチやディスカッション、グループトークなど、言葉を介した「対話」を大事にしています。いつも一緒に過ごしている学級の友達でも、スピーチによって「こんなことに興味があるんだな。」と新たな発見をすることがあったり、提示されたテーマに対して、様々な見方・考え方があることに気付いたりすることがあります。また、どんな内容で話そうか、どんな伝え方をしようかと、相手意識をもって考えます。5・6年生になると、ディスカッションの題材を自分で選んでみんなの中に出すこともしていきます。新聞記事やテレビのニュース、本などの言葉に、関心をもって立ち止まるきっかけになってほしいと思っています。



【5年朝の会 哲学の時間】

対話というと、「相手と話をすること」ですが、しっかりした考えがないと対話ができないということはありません。私自身を振り返ってみても、人の話を聞いているうちに、自分の考えがだんだん形になってくるということはよくあることです。また、人と話すことによって、「私はこんな考えを持っているんだな。」と認識することもあります。そう考えると、「相手と話をすること」の「相手」は、目の前の人であると同時に「自分自身」であると思うのです。積極的に話をすること、自分から発言することは少ないけれど、人の話をよく聴いている子など様々ですが、大事なものは、「どんな考えも受け止めてもらえる。」という安心感だと思います。その意味でも、三笠小学校で大事にしている「うなずきながら目と耳と心で聴く」ことを、これからも大事にしていきます。



校長 小島 みどり